

「日本人がすぐに謝るのはズルいだけか」②

「一段落目」実体験から導入に入る

(例)

幼稚園の時のことだ。私の髪を男の子が引つ張った。痛かったので私は泣いた。先生がやってきて、その男の子を叱った。そしてその子に謝らせた。「ほら、痛いことをしたんだからちゃんと謝るのよ。」その子は私に謝った。その次に先生は私に向かって、「さあ、ちゃんと謝ったんだから仲直りしようね。」といった。私は、「いやだ。ぜったいにゆるさない。」と言った。本当に痛かったし、許せなかったのだ。そして、私は怒られた。「お友達がきちんと謝ったときは、許してあげなきゃダメでしょ。」先生はそう言っていた。ずいぶん昔のことだが、そんなことがあった。その時からだろうか、私は人に謝ることができない子供になっていた。

「二段落目」考えを比較しながら、自分の意見を提示する

(例)

謝ったら、許してあげるべきなのだろうか。許してあげようと思えるような償いもされていないうちに、相手のことを許してあげなければいけない、そういう空気がどこにある。その空気を読まない者は逆に周りから白い目で見られたりする。それは確かに「**でも、**おかしいとは思いつながら、実のところ私もそんな空気を読みながら生活している。他人に対して謝りにくい性格ではあるが、他人のことは結構許す。小さなころの思い出がトラウマになつて、許してやらないと自分が損をするという気持ちが働いているのかもしれない。相手との関係や、自分が今いる集団の中の地位を壊したくないという気持ちもあるんだろう。相手が謝り、こちらが許しさえすれば、冷たくなりかけていた友だち関係なんかも、穏やかな状態に戻すことができる。」

「三段落目」前段の意見を展開し、個人の話から一般論へ

(例)

アメリカや中国やアラブでは、人々は簡単には謝らない。そんな話を聞かされても、アメリカ人や中国人やアラブ人と喧嘩したことはないの、私にはよくわからない。きっと、自己主張の強い人たちが多いということなんだろうが、日本人がその真似を敢えてする必要はないと思う。その場を丸く収めて人との和を保つというのは、悪い文化じゃない。謝罪の気持ちが全く見えない「ごめんなさい」や「すいません」はもちろんムカつくが、相手がとりあえずでも自分の間違いを認めて謝罪するなら、なんとなく上に立った感じになれて気分はよくなる。他人に謝れない私などにとっては、すぐに謝ってくれる人が多い日本の文化の方が助かると思う。

「四段落目」結論・まとめ

(例)

許さなければいけない、というのはやっぱりおかしいところもあるが、謝り、許し合うことで、関係を和ませることができるのなら、そういう文化や習慣は悪いもんじゃない。あの時の男の子のことも、幼稚園の先生のこと、今の私なら許せるかもしれない。